

☆☆図書室だより☆☆ ☆第38号☆

☆☆- 図書委員会よりお知らせ -☆☆



待降節のおよろこびと共に、おすすめしたい本と、併せて新しく買った本の紹介をさせていただきます。図書室からのお知らせがよい贈り物になりますように。

《購入書》	書名	著者名・出版社・発行年など
平和とは何か	聖書と教会のヴィジョン	W.ブルグeman 著 小友聡 他 訳 教文館 2018.10.1 [橙 193.1 Br]
わかってわからないキリスト教		渡辺善太著作選12 ヨベル新書020 2021.3.3 [茶 198.34 Wa]
現代キリスト教教育学研究	神学と教育の間で	朴憲郁 著 日本キリスト教団出版局 2020.8.24 [茶 197.7 Pa]

(↓ 裏へつづく)

ご紹介



上田充香子 阿佐ヶ谷教会副牧師

『主イエスは近い クリスマスを迎える黙想と祈り』 [茶 198.36 Ko]

小泉健 著 日本キリスト教団出版局

今年ももうすぐアドベントを迎えます。この時期はいつも心がワクワクします。未だにコロナで色々なことが制限された中にありますけれども、そんな私たちの沈んだ心にも主イエスのご降誕の喜びの知らせが届きます。それまでの1日1日を大切に、主イエスをお迎えする準備をしましょう。この本は、日毎に御言葉に聴き、その御言葉を思いめぐらす黙想と、祈りから、クリスマスまでのカウントダウンをすることが出来ます。著者である小泉健先生(東京神学大学教授)の言葉はとても読みやすく、与えられた御言葉を色鮮やかに思いめぐらすことが出来ます。

アドベントの期間、子どもたちはアドベントカレンダーをひとつずつ開きながら過ごします。大人である私たちも、1日1ページ、アドベントカレンダーを開くように、この本を読み進めながら、主イエスのご降誕までの日々を過ごしてみるのはいかがでしょうか。



棚村恵子 日本基督教団牧師

『クリスマス・ブック：改革者の言葉と木版画で読むキリストの降誕』

マルティン・ルター 著 R・ベイントン 編 中村妙子 訳 新教出版社 [緑198.34 Lu]

この本は宗教改革者マルティン・ルター(1483-1546)の数あるクリスマス説教の中からルターの専門家として名高いローランド・ベイントン(1894-1984)が7篇を選んで編集し戦後に出版したものです。宗教改革500年を記念して2017年に新装復刊されました。

7つの説教題は「受胎告知」「マリアのエリサベツ訪問」「降誕」「羊かいたち」「ヘロデ」「博士たち」「宮もうで」です。全篇に改革者ルターらしいプロテスタント的洞察が貫かれています。また、「はしがき」にはベイントンによる興味深い解説、各説教のはじめにはルター時代の木版画の挿絵、巻末にはルターが子供たちのページメント用に作った可愛い詩(讚美歌101番の原作)が収録されていますので有益で楽しい本となっています。神が人となってお生まれくださったご降誕のテーマである「神のへりくだり」に対するルターの深い感謝と賛美、そして感動が伝わる本書の講読をお薦めします。

《購入書》	書名	著者名・出版社・発行年など
クリスマス	カール・バルト 著 宇野元 訳	新教出版社 2020.10.23 [茶 196.3 Ba]
キリスト者として生きる	: 洗礼、聖書、聖餐、祈り ローワン・ウィリアムズ 著 ネルソン橋本 ジョシュア諒 訳 他	教文館 2021.3.3 [茶 198.44 Wi]
《ご寄贈書》	書名	著者名・出版社・発行年など
ここが変わった！「聖書協会共同訳」	新約編 浅野淳博 中野実 他 著	日本キリスト教団出版局 2021.3.25 [黄 193.5 A]
☆☆ 従来の「新共同訳」など過去の翻訳からの変遷が、親しみやすい文章で学べます。		
ICU式「神学的」人生講義	この理不尽な世界で「なぜ」と問う	魯恩碩 著 CCCメディアハウス 2021.7.31 [赤 191 Ro]
神様のファインダー	元米従軍カメラマンの遺産 ジョー・オダネル 写真 坂井貴美子 編著	いのちのことば社 フォレストブックス 2020.8.24 [黒 916 O]
N.T.ライト新約聖書講解1	すべての人のための マタイ福音書 1 1-15章	N.T.ライト 著 大宮謙 訳 教文館 2021.11.10 [黄 193.61 Wri]
ヴァイツゼッカー大統領演説集	永井清彦 編訳	岩波書店 1995.7.26 [黒 312.34 We]



『クリスマス』

カール・バルト 著 宇野元 訳 新教出版社 2020年



この本は1920年代から1960年代までのカール・バルトがクリスマスに寄せて書いたエッセイ集である。4000字程度の短いエッセイが多く、バルトの書いたものの中では読みやすい。

第一話「クリスマスの知らせを聞く」は1928年に書かれたメッセージである。バルトはこの小編で、クリスマスに向けて私たちがどのような姿勢でそれを迎えるべきかを語る。

「あなたがたのために今日救い主が生まれたことを知っているか？」という問いに「私はキリスト者だから知っているさ。今も、昔も、将来も。」という人もいれば、気取って「俗人の私には難しい問いだな。」と答える人もいだろう。しかし、どのように答えようとも自分の「寄る辺なさ」を自覚しない限り、このクリスマスの出来事の意味は耳に入っていない。神に対して素直になるとき、神がこのことを備えてくださったことが理解できるという。

(神学生 T.K)



『キリスト者として生きる 洗礼、聖書、聖餐、祈り』

ローワン・ウィリアムズ 著 ネルソン橋本ジョシュア諒 訳 教文館 2021年

英国教会の最高位聖職者カンタベリー大主教を 2002-2012 に務めた著者が聖週(受難週)の公開講座の一環としてカンタベリー大聖堂で行った講演を編集し 2014 年に出版された原著 Being Christian の邦訳です。

冒頭、著者は、キリスト者の人生の本質的な要素は何でしょうと問いかけた上で、この小さな本は、読者がそれらのうち最も明らかな四つである「洗礼、聖書、聖餐、祈り」について考えることを助けるようデザインされていると述べます。

続く各章を読み、これまでぼんやりとしか理解できていなかった多くの大切な事柄が、深い学識と生きた信仰の喜びが滲む明晰な語り口で説き明かされていることに喜ばしい驚きを感じました。本書に出会うきっかけをくださった中野先生と信友会の先輩に感謝しつつ、各章末にある発題への自分なりの応答を考え、祈り求め続けています。

(信友会 N.T)

★図書委員会より★

〈紹介文の募集〉阿佐ヶ谷教会図書室にある図書、または購入希望書、寄贈希望書の紹介文を募集しています。感想文、証、解説など形は自由です。選考して、本誌に掲載させていただきます。(本文400字まで)

〈ご寄贈について〉阿佐ヶ谷教会教職関連の図書を寄贈してくださる方、図書委員までご連絡ください。